

第 1 回大田区景観まちづくり賞審査結果について

1. 実施概要

1) 趣旨

景観まちづくりへの関心を高め、大田区らしい魅力あふれる景観形成をさらに推進するために、区内の良好な景観形成に寄与する街並みや建物、活動などを募集し、表彰する「大田区景観まちづくり賞」を創設しました。

2) 募集部門と推薦のポイント

募集部門	街並み景観部門	景観づくり活動部門
募集内容	地域の個性が感じられる、あるいは魅力的な景観形成に貢献しているもの ・建築物等 ・街並み（公共空間を含む） ・みどり（樹林地、生垣等） 等	区民・団体・事業者等が取り組む、魅力的な景観形成に貢献している活動
表彰対象者	景観形成に貢献した建築物等にかかわる所有者（個人、事業者）・設計者・施工者	活動の主体である個人・団体・事業者等
推薦のポイント ※	①大田区らしい魅力が感じられる ②周辺環境との調和や配慮がみられる ③継続的な維持管理によって、良い景観が育まれている ④創意工夫や優れた取り組みにより、独自の景観が創出されている ⑤地域の人々に深く親しまれている	①景観づくり活動の結果として、良好な景観が形成されている ②地域の自然、歴史、生活文化などを活かした大田区らしい活動となっている ③景観づくり活動が地域力、にぎわいや魅力の向上につながっている ④今後の活動が継続的な景観づくりにつながっていくことが期待できる

※応募者が、応募内容がどのポイントに該当するか評価する際に活用。

3) 募集方法

- ・大田区関係機関からの募集チラシ配布
- ・大田区ホームページ、区報、ツイッターによる周知
- ・大田区区民活動情報サイト（オーちゃんネット）への掲示
- ・大田区建築関係団体への募集チラシ配布（49 団体）
- ・大田区景観関係区民活動団体への募集チラシ配布（12 団体）

4) 募集及び審査過程について

実施時期	内容
平成27年7月13日(月)～10月30日(金)	募集
平成27年11月20日(金)～12月2日(水)	書面審査
平成27年12月16日(水)	第1次審査 ・街並み景観部門現地調査候補10件を選定 ・景観づくり活動部門ヒアリング候補5団体を選定
平成28年1月20日(水)、21日(木)	景観づくり活動部門ヒアリング
平成28年1月21日(木)、22日(金)	街並み景観部門現地調査
平成28年1月22日(金)	第2次審査 ・街並み景観部門受賞候補5件を選定 ・景観づくり活動部門受賞候補2団体を選定

5) 選考委員一覧（敬称略、◎は部会長、部会長を除き50音順）

氏名	所属
野原 卓◎	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授 大田区景観審議会副会長
加藤 芳夫	大田区景観審議会区民委員
荘 真木子	大田区景観審議会区民委員
杉田 早苗	東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻助教 大田区景観審議会委員
杉山 朗子	日本カラーデザイン研究所シニアコンサルタント 大田区景観審議会委員
田中 友章	明治大学理工学部建築学科教授
平澤 芳雄	大田区景観審議会区民委員
福井 恒明	法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科教授 大田区景観審議会委員

6) 今回の応募状況

・以下のとおり応募があった。応募内容の概要については次ページに示す。

部門	街並み景観部門	景観づくり活動部門
応募状況	72通 (67物件※1)	18通 (15活動団体※2)

※1 応募があった物件数。一部重複応募があったため、応募総数より少なくなっている。

※2 活動団体数。一部重複応募があったため、応募総数より少なくなっている。

2. 審査結果

1) 受賞候補

・受賞候補は以下のとおりであった。受賞候補の位置図を次ページに示す。

①街並み景観部門

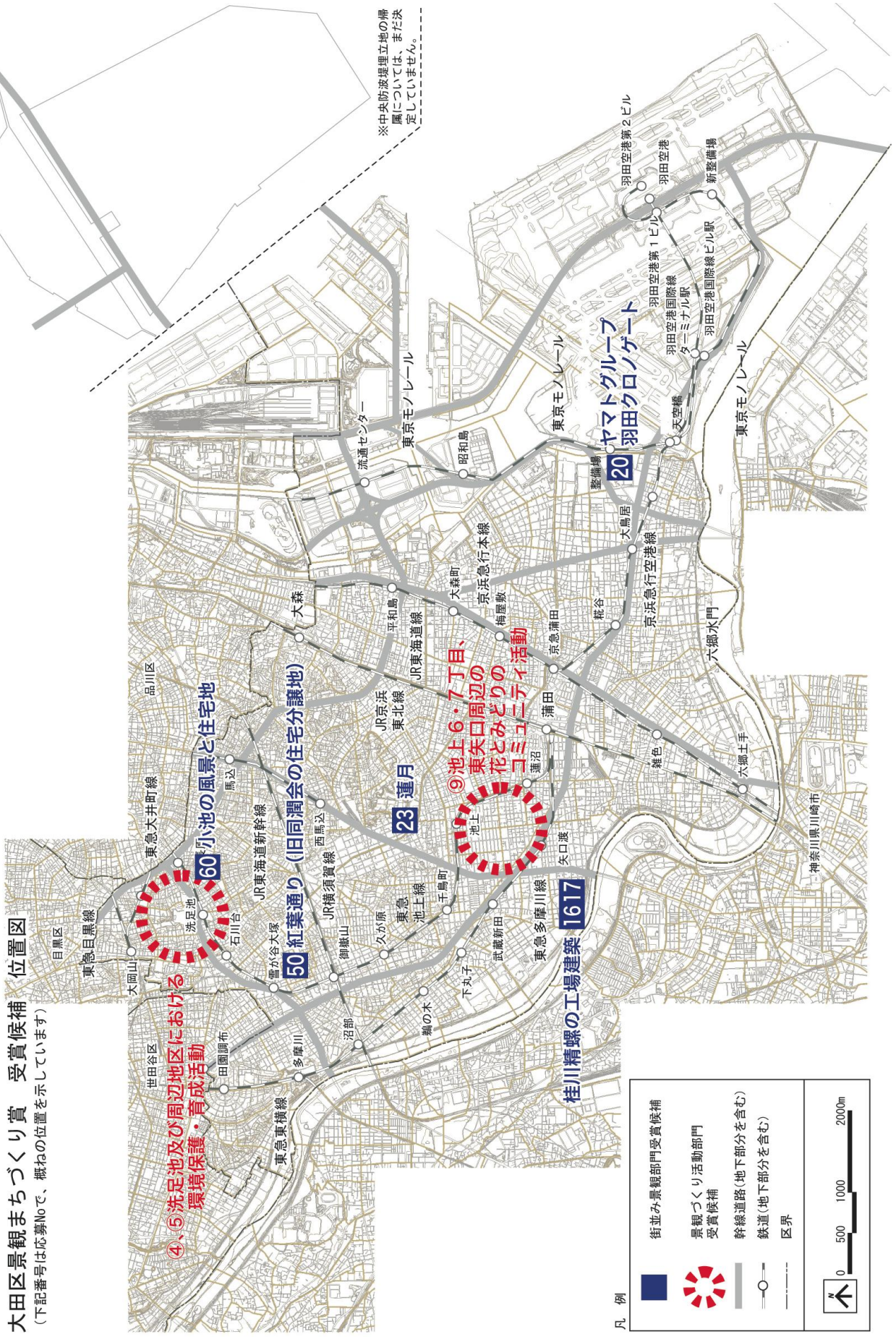
応募 No	受賞名	受賞者名	所在地
16 17	桂川精螺の工場建築	株式会社桂川精螺製 作所	矢口 3-24-1
20	ヤマトグループ 羽田クロノゲート	ヤマト運輸株式会社 株式会社日建設計	羽田旭町 11-1
23	蓮月	株式会社蓮月	池上 2-20-11
50	紅葉通り (旧同潤会の住宅分譲地)	南雪谷自治会	南雪谷 4 丁目 3・4・9・10 番の一部
60	小池の風景と住宅地	小池若者組合	上池台 1-36-1 周辺

②景観づくり活動部門

応募 No	受賞名	受賞者名	活動エリア
4 5	洗足池及び周辺地区における環 境保護・育成活動	公益社団法人洗足 風致協会	洗足池とその周辺地域
9	池上 6・7 丁目、東矢口周辺の花 とみどりのコミュニティ活動	なでしこの会	池上 6・7 丁目、東矢口

大田区景観まちづくり賞 受賞候補 位置図

(下記番号は応募Noで、概ねの位置を示しています)



※中央防波堤埋立地の帰属については、まだ決定していません。

2) 講評

(1) 総評

- ・各部門ごとの総評は次のとおりである。

①街並み景観部門

応募総数は 72 件と、予想を超えた非常に多くの応募があり、大田区の街並み景観に対する地域の高い関心と可能性を感じた。応募内容としては、建築物やみどりを対象としたもののみならず、複数で街並みを構成するものや地域のシンボルとなる歴史的建物、公共空間(道路・公園・河川等)を中心としたものや工場建築を始めとした地域の特徴的な景観を創出するもの、そして、

歴史的文化的な風景を継承したものから現代の新しい景観創造に至るものまで、非常に幅広く質の高い応募内容であった。さらに、応募物件の立地をみても、大田区内からまんべんなく応募が出され、大田区の景観は多様性を感じることもできた。

審査過程としては、相当数の応募があり、難航を極めたが、まず事前の書面審査により評価の高い物件を選んだ上で、第1次審査を実施し、詳細な議論を経た結果 10 件が候補として選定された。その後、現地視察を行い、実際の佇まいと、周辺環境も確認した上で、最終審査を行った。各委員による白熱した議論の結果、最終的に表彰対象として 5 件が選定されることとなった。

選定された 5 件を概観すると、大田区の特質がよく表れた地域のシンボルとなる工場建築や、地域貢献空間を有する流通施設、リノベーションで新たな価値が加えられた歴史的建造物、震災以降の住宅地形成の歴史を伝える住宅地の街路景観、大田区の地形的特質のよく表れた池と一体の住宅地景観といったように、新旧の時間軸、用途やテーマについても多様なものが選定された。

また、惜しくも選外となった物件についても、大田区の特徴的な歴史的資産や土木構造物、戦前戦後の住宅や住宅地を新たにリノベーションしたもの、緑を保全・連続させるための挑戦的な試みなど、非常に大田区の街並み景観を豊かにする試みも多く見られており、次回以降の更なる応募、および、さらなる豊かなまちなみ景観づくりを継続的に実施されてゆくことが期待される。

今回は第1回ということで、「大田区での良好な景観とは」ということを改めて考える重要な機会となったが、今回選ばれた物件もそうでない物件も、大田区のまちなみ景観の維持・向上に向けて、さらなる保全・活用・整備改善・創出活動が行われてゆくことを期待している。

(委員：野原 卓)

②景観づくり活動部門

応募総数は18件と、多くの応募がみられ、大田区の景観づくり活動の盛り上がりと積み重ねが感じられた。応募内容としては、近世から近代に至るまで、幅広い時代の歴史的景観を継承し続ける地域の維持保全活動や、住宅地を中心とした景観の維持保全活動、地域の活気ある商店街での景観づくり活動や、街路樹や植栽を契機とした環境の維持管理活動、地域のアイデンティティと活動の風景を受け継ぐお祭りなど、様々な活動がエントリーされた。

審査過程では、まず事前の書面審査により、評価の高い物件を選んだ上で、第1次審査が行われ、ヒアリング調査候補団体として5団体が選定された。その後、ヒアリング調査及び活動場所の景観を確認した上で、最終審査が実施され、詳細な議論を経た結果、最終的に表彰対象として2団体が選定されることとなった。

選定された2団体は、大田区を代表する景観資源の一つである洗足池周辺での景観維持・向上活動を行う団体と、地域密着型で非常に丁寧な植栽の維持管理活動を行う団体であり、景観づくり活動における多様なアプローチの存在が見出されたが、いずれも、地域自らが自主的かつ積極的に景観づくり活動にそれぞれの工夫をもって取り組み、かつ、地域の多くの人たちを巻き込みながら、公共や地域に向けての視点を有する活動、そして、それが継続的に進められていく可能性を感じる活動が評価された。

また、選外となった活動の中にも、非常に積極的かつ魅力的な景観づくり活動が多く見られた。同時に、表彰対象となった活動団体を含めて、活動するにあたって様々な課題や悩みがあることも分かり、景観づくり活動育成のための新しいサポートの仕組みづくりが、今後何らかの形で必要であるということも感じられた。

表彰対象になった団体には大田区の代表的な景観づくり活動団体として、ますますの活躍を期待するとともに、選外となった活動団体についても課題や悩みを解決し、引き続き大田区の景観づくりを継続的に実施し、大田区の景観づくり活動の機運がさらに高まり、豊かなものとなることを期待したい。

(委員：野原 卓)

(2) 受賞候補に関する講評

- ・各受賞候補に関する講評は次のとおりである。

街並み景観部門審査結果 (1/5)

名称	桂川精螺の工場建築
所在地	矢口 3-24-1
写真	
概要	<p>看板鉄塔とのごぎり屋根が特徴的な多摩川沿いに立地する1950年代の工場建築である。平成27年10月から12月までTBS系列で放送された「下町ロケット」に出てくる佃製作所のロケ地になっていたことも記憶に新しい。</p>
表彰理由	<p>独特な形状をもつ看板鉄塔やのごぎり屋根の工場群が特徴的な外観を形成しており、必ずしも大田区で典型的な町工場の規模とはいえないものの、町工場が多く立地していたこの地域の土地利用を象徴する景観となっている。</p> <p>看板群は第二京浜（国道1号線）からの見え方、工場は多摩川堤防からの見え方を意識した形状となっていることが伺え、周辺地域との関係も意識したデザインとなっている。加えて、端正な立面のプロポーションや繊細なスチールサッシュの開口部など、1950年代という時代を感じさせる意匠が残っており、町工場が減少して住宅を中心とした市街地に変容したこの地域に残存する景観資源としても貴重な建物となっている。</p> <p>以上の内容を踏まえ、地域との関係に配慮が見られる、ものづくりのまちである大田区を代表する建築物であることから、大田区景観まちづくり賞にふさわしい街並み景観であると判断した。</p> <p style="text-align: right;">(委員：田中 友章)</p>
受賞者	株式会社桂川精螺製作所


街並み景観部門審査結果 (2/5)

名称	ヤマトグループ 羽田クロノゲート
所在地	羽田旭町 11-1
写真	
概要	<p>本施設はヤマトグループ各社の機能を集約したグループ最大級の物流ターミナルである。物流ターミナルでありながら、自然エネルギーの活用や大規模緑化等によって、環境保全や自然との調和を意識している。また、地域貢献エリア「和の里」においては、地域住民も利用できる体育館、保育所、スワンカフェ&ベーカリーを設置し、地域との共生を目指している。</p>
表彰理由	<p>本施設は、羽田空港に近接する大規模工場跡地に整備された大規模物流ターミナルであり、大田区の景観特性の一つである「工業・流通空間」の中でのまちなみ景観づくりが求められた案件である。</p> <p>大型物流ターミナルは、その施設の性格上、とかく地域のスケールに対して不調和なものとなりがちであるが、本施設では、環状8号線および人の流れの多い動線に対して圧迫感を与えないようなボリューム配置がなされるとともに、「前庭」的な空間として創出された地域貢献エリア（「和の里」）を中心に、地域との共生を意識した広場空間や柔らかなランドスケープの醸成が図られているほか、スワンカフェ&ベーカリー・保育所・体育館など、周辺と関わりあいをもつ「接点」となる空間が設けられている点などが高く評価された。</p> <p>現地視察や審査の過程では、建築意匠における先進性・創造性・費用対効果、敷地裏側に対する圧迫感について、賛否両論の意見も出されたが、大規模な流通施設でありながら、工夫次第で魅力的な景観形成が実現可能であることを示した好例である。</p> <p>今後、地域貢献エリアにある各施設が地域コミュニティの場としてさらなる活発な活動や維持保全が継続的に実施されることが期待される。</p> <p style="text-align: right;">(委員：野原 卓)</p>
受賞者	<p>ヤマト運輸株式会社 株式会社日建設計</p>

街並み景観部門審査結果 (3/5)

名称	蓮月
所在地	池上 2-20-11
写真	
概要	<p>池上本門寺の周辺にある、昭和 2 年に建てられた木造の建築物である。昔は池上本門寺への参拝者の旅籠として使われ、その後は長い間 1 階は蕎麦屋、2 階は地域の集会所・宴会場として使われ、地域に親しまれてきた。しかし、平成 26 年に蕎麦屋が閉店することとなったが、建物の保存・活用の機運が高まり、リノベーションが行われ、平成 27 年に古民家カフェ蓮月がオープンし、現在に至る。</p>
表彰理由	<p>本建築物は、池上本門寺山門西側に位置し、山門から池上梅園へ通じる本門寺関連寺院が建ち並ぶ散策路の近傍にある。特に本門寺周辺は大田区の歴史、自然及び景観上重要な場所であり、良質な景観の保全、形成が望まれている。</p> <p>近くに呑川が流れ、そのエリアと相まって将来に亘り景観形成が行われる地域でもある。貴重な昭和初期の木造建築の景観、保存、活用といった単体としての評価の一方、参道沿いの萬屋酒店等、点在する古建築と一体となり、本門寺周辺の景観形成に寄与している面も評価されている。</p> <p>門前町の風情を復活、整備させる拠点としても重要であり、古建築の意匠と雰囲気兼ね備え、存続が望まれる建物である。敷地の庭も利用されているが、更なる整備がなされ、建物と共に周遊の観光資源として定着することが期待される。</p> <p>現古民家カフェ蓮月の運営、維持管理はボランティア活躍で行われており、地域コミュニティ形成の場としても機能しはじめている。</p> <p>以上の内容を踏まえ、当建築物が池上本門寺周辺の景観の維持、向上並びに、賑わいのある魅力的な地域コミュニティの場としても発展的に寄与することを期待し、大田区景観まちづくり賞に相応しいと判断した。</p> <p style="text-align: right;">(委員：平澤 芳雄)</p>
受賞者	株式会社蓮月

街並み景観部門審査結果（4/5）

名称	紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）
所在地	南雪谷 4-3、4-4、4-9、4-10 の一部
写真	
概要	<p>関東大震災（1923年）後の復興事業として同潤会により昭和初期に東京郊外の各所で開発・供給された分譲住宅地のうちの一つである。モミジの並木が印象的な街路が私鉄駅からほど近い住宅街の一角に残されている。</p>
表彰理由	<p>計画的な住宅地形成の歴史を今に伝える住宅地の街路景観である。</p> <p>開発当初に植栽されたモミジの樹木が幅員の狭い私道の両側に並んでおり、一部は伐採されているものの少なからぬ本数が今も残り、それらが空間に落ち着いたリズムと心地よいたたずまいをもたらしている。現地視察時はあいにく落葉後であったが、青葉や紅葉の季節には通行する人々の目を楽しませてくれるものと想像される。</p> <p>開発当時に建てられた木造住宅がほとんど現存していないことから、景観における要素として街路・並木と建物との関係性という観点からは多少議論もあった。しかしながら、歴史を感じさせる特徴ある一帯の街並みや街路樹の魅力、また私道にもかかわらず植栽がかなり保全されていること、さらに全体としてまとまった区画規模が残されていること、等を考慮・評価し、受賞にふさわしい景観であると判断した。</p> <p>区内に残る貴重な景観の一つとして今後も維持管理されていくことが望まれる。</p> <p style="text-align: right;">（委員：荘 真木子）</p>
受賞者	南雪谷自治会

街並み景観部門審査結果 (5/5)

名称	小池の風景と住宅地
所在地	上池台 1-36-1 周辺
写真	
概要	<p>上池台の住宅地にある小池公園を中心とした一角である。公園については、近年改修が行われ、環境に配慮し、ビオトープも設けられるなど、美しく生まれ変わっている。</p> <p>小池の存在が良好な景観形成に寄与するとともに、洗足池とは異なり、池を中心にして斜面になっている部分に住宅があり、池と住宅が対話しているような空間となっている。</p>
講評	<p>小池を囲む斜面に立地する住宅地が、坂のある台地と低地を結ぶ大田区の地形を象徴する独特な景観をコンパクトに形成しており、その景観は高く評価できる。</p> <p>小池公園は 2009 年に“安らぎと潤い空間の創造”をコンセプトにリニューアルオープンした。中心の池は雨水・湧水を活用し、護岸は自然石、緑化は高木・中木・低木を組み合わせさせた植栽と水生植物などで緑の輪郭を作り出している。池周辺は多くの水鳥や魚などの動植物生態（ビオトープ）の観察もできる。坂を上り小池を見下ろす高台に立てば小池を囲む住宅地の風景だけでなく富士山を眺望することもできる。</p> <p>また、小池公園を活用した年 1 回の小池まつり（小池若者組合）をはじめ、年 3 回実施される自然観察会（地域力推進雪谷地区委員会小池公園分科会）の場となる。水辺で遊べる親水エリアや池を 1 周できる回遊路も整備され、保育園など児童の遊び場、小学校の協力による小池公園内の樹木の名前つけ、近隣住民の休み場など地域に親しまれている場である。</p> <p>以上の内容を踏まえ、大田区の地形の特徴が分かる独特な景観を有するとともに、地域の憩いの場になっているとともに、今後、この素晴らしい景観を保全するために、周辺の住宅地などを含めて、良好な形成が図られることを期待して、大田区景観まちづくり賞にふさわしい街並み景観であると判断した。</p> <p style="text-align: right;">(委員：加藤 芳夫)</p>
受賞者	小池若者組合

景観づくり活動部門審査結果 (1/2)

名称	洗足池及び周辺地区における環境保護・育成活動
活動場所	洗足池とその周辺地域
写真	  <p style="text-align: center;"> 中原街道から洗足池の風景 ホタル復活プロジェクトの活動風景 </p>
活動概要	<p>公益財団法人洗足池風致協会が中心となって、約 80 年にわたり、洗足池及びその周辺地区における環境保護・育成活動を大田区とも協働しながら行ってきた。また、近年は地元中学生と連携した取組として、昭和初期に生息していたホタルを復活させるホタル復活プロジェクトを行い、環境指標生物であるホタルを通して、水質改善を行い、景観をより良くしていく活動なども行っている。</p>
表彰理由	<p>洗足池及びその周辺は大田区の景観の基礎となる地形と、土地利用による景観の形成の経緯を知るに恰好の場所である。そこに歴史上のものと思われそうな「風致協会」が東京都で唯一に残されていることは大田区の誇りであろう。しかも、単に古いものを大切にという考えではなく、毎年毎年テーマを検討し、次の世代の「風致」「景観の価値」を大切にしたいという気持ちや行動力を醸成するという長期的な構想を小学校中学校などと共同で実施する一方で、季節に合わせた毎日の植栽のメンテナンスにも余念がない。80 年を経て今なお生き生きと活動する、見事な景観まちづくり団体である。公益財団法人洗足風致協会は、補助金を使うことなく、周辺の様々な問題にアプローチしながら、風致の維持に取組み実績を重ねてきた。風致協会制度の目指した「保存」と「利用」の両立を果たしてきた経営手腕に感服する。</p> <p>地元中学生を巻き込んだホタル復活プロジェクトについても、ボランティアの協力も得ながら、現在無くなったものを復活させる取組を継続的に実施するなど、地域力の向上に寄与する活動も行っており、将来への期待が膨らむ。ここまで継続してきた活動を、必ずや次世代次々世代まで継承していく支援を心がけたいものである。</p> <p>以上の内容を踏まえ、大田区景観まちづくり賞のお手本として広く区民に知らしめるべきと判断した。このような取組が大田区のみならず、東京、ひいては日本全国で展開されることを願うものである。</p> <p style="text-align: right;">(委員：杉山 朗子)</p>
受賞者 (活動団体)	公益財団法人洗足風致協会

景観づくり活動部門審査結果 (2/2)

名称	池上6・7丁目、東矢口周辺の花とみどりのコミュニティ活動
活動場所	池上6・7丁目、東矢口
写真	
活動概要	<p>地元住民から構成されるなでしこの会が池上6・7丁目間から東矢口に至る歩道の植栽帯の手入れを行うとともに、その活動報告をお便りで毎週近隣（180部）に配布し、地域との交流を図っている。</p>
表彰理由	<p>なでしこの会が生み出しているのは、花とみどり豊かな生活景である。そこには、特別な歴史や自然地形はないが、地域の人々を繋げる素晴らしい活動が展開されている。会では自然体で無理をしないという明確なスタンスのもと、会員の意思を尊重しながらフレキシブルに行動する緩やかさがあり、月8回程の精力的な活動を継続していることから、会員が無理なく活動を楽しんでいる状況が伺える。</p> <p>また、地域の人々の繋がりをつくるという明確な目標を持っており、活動報告のお便りを毎週という高い頻度で近隣に配布し活動を周知するとともに、育てた植物を使った子ども向けのイベントの開催や地元障害者施設との交流など、地域の様々な主体を繋げる活動を積極的に行っている。植物の手入れ作業への参加が難しい高齢者のために居場所づくりを検討するなど、今後の活動の広がりも期待できる。</p> <p>資金確保においても、会の趣旨に賛同した会員約70名からの会費と様々な公募助成の獲得により、自立した運営を行っている。</p> <p>以上の内容を踏まえ、活動内容および地域との連携を高く評価し、今後の活動の広がりや継続性も期待できることから、大田区景観まちづくり賞にふさわしい活動であると判断した。</p> <p style="text-align: right;">(委員：杉田 早苗)</p>
受賞者(活動団体)	なでしこの会